

嬉野ゴミゼロの関係で一週間遅れの開催

中郷まちづくり協議会総会が5月28日（日）午後1時30分より開催、関係者五十八名の多くの皆様方が参加していただきました。今年で設立8年目を迎える協議会も地域に溶け込み、存在そのものは認識されておりますが、関係者以外の皆様方の認知度は今イチ、「地域のことは地域で」を合い言葉に、これまで活動して参りましたが、今年は、地域住民の人口が1000人を切り厳しい現実と直面、まちづくりの予算等でも人口割が適用され昨年と比較すると12万円の減額と成り月1万円の予算縮小を余儀なくされました。一番の問題は、事務局費（人件費）等の削減です。昨年と同様の事業等を実施していく中で今後の事を考えると事務局員の確保が困難となってくると思われまふ。中郷地域は、自治会・まちづくり・公民館・各種団体等の連携も強化され今日まで諸行事等に対応してまいりました。「当たり前」の事が「当たり前」に出来ない現実を受け止めなければなりません。今年、合ヶ野の山下 博氏に議長の重責をお願いし議事進行、取り仕切っていただきました。

二十八年度は、乾会長が地域の安全・安心に重点を置いた施策で、コミュニティー事業で購入された備品等を活用した防災訓練も実施していただきました。

多くの意見を集約し検討していただきました。事業報告では、「暮らしを守る委員会主催の敬老会の開催（200名参加）・宅老交流会では、櫃まぶし井が振る舞われ今後もこの事業は継続して欲しいと強い要望が寄せられました。」「いきがい学習委員会」では、中郷の三大事業「盆踊り大会・地区民運動会・文化祭」を実施、

年々高齢化をしていく中でいつまでこれらの行事等が継続出来るのか真剣に検討する時期に来ております。参加者の減少と、事業の中身の見直し、実施時期の検討も含めて、まちづくり協議会に課せられた大きな検討事項です。三大事業の参加者は、合計1,100名でした。盆踊りは、参加者は多いが踊り手が少なく盛り上がり欠ける点今後の検討課題です。

地区民運動会も地区対抗で接戦が続き、僅差で合ヶ野・滝之川地域が優勝の栄冠に輝きました。（少ない戸数ながら見事な団結力の勝利でした。）

文化祭には、多くの皆様方がご参加をいただき幼小の招待イベントに続き、小柳まどか・見城由美さんのステージ・二部では麻生ゆかりショーがあり、会場は、割れんばかりの拍手と観衆が一つになって最高の盛り上がりを見せてくれました。

中郷地域の特色を活かした物産コーナーが一番の気分で多くの皆様方が利用、お昼前には殆どのブースが完売状態でした。出品される品目等も保健所の指導等があり制約される中、このコーナーを楽しみに行事に参加していただいている皆さんも多いと思います。地産地消を理念に特色ある各ブースでの販売はなくてはならない存在です。多くの皆様方に関わりを持っていただき力強い限りです。



総会は 静かな中にも真剣な議論

二十八年度事業報告・会計決算報告と質疑応答があり、福祉事業費（２）の中で昨年は、幼稚園交流事業に使用しているが、今年は歳末助け合い事業費で計上されている違いは何かとの質問があり、昨年と何ら変わりはないが、宅老事業に使用すべき費用を幼稚園交流事業に間違えて使用した経緯が説明されました。



静かな中にも山下議長の裁量で議事をスムーズに進行していただき当初予定の午後３時過ぎに終了することが出来ました。

二十九年度も多くの課題を抱えておりますが、役員一同力を合わせて前に進んでいきたいとの辻岡会長の力強いお言葉もいただきました。

課題は山積

少子高齢化と１人暮らしの増加、人口減少、空き屋対策、耕作放棄地の増加、獣害対策、事業のマンネリ化、行事への参加者減少や同様の参加者で顔ぶれが変わらない現状等課題は山積しておりますが、出来る事から前に進め少しでも歯止めをかけていく必要があります。現在の活性化協議会主体の「春のなめり湖桜祭り」「秋の天白縄文祭り」等もまちづくり協議会を中心に活動の場が広がれば地域の活性化に寄与することと思えます。それには地域に在住の皆様方のご理解とご協力が不可欠です。

29年度まちづくり協議会

役員名簿

会長・宮野自治会長・辻岡 孝明 副会長・森本自治会長・伊藤 博行

書記・事務局・長谷川 敏 会計・滝之川自治会長・大森 健市

事業担当役員：暮らしを守る委員会 矢下自治会長 粕谷 正美

いきがい学習委員会 合ヶ野自治会長 中川 政弘

活性化委員会 釜生田自治会長 榊原 尚

特別委員会 森本自治会長 伊藤 博行

会計監査委員：矢下地区 玉川 勇次 山本 孝泰